廃校を活用した地域交流拠点の作成に向けた現状把握と解決策の提示

ハチガク町おこしたい
八戸学院大学 地域経営学部 地域経営学科
戸舘凛　長畑春太　田嶋芽以　小田有紗

現状と課題

十和田市では現在、少子高齢化や若者の都市流失などの課題が多くある。
私たちは、生活水準の低さ、職業選択での候補の少なさ、自分のなりたい将来の姿に向けた場所や物がないなど思っている若者の流出などが起こり挙げた課題や地域活動の衰退、イベント減少につながると考えている。

これらの課題の解決に向けて

・実際に廃校を再活用しイベントの開催、運営をして地域の人たちを呼び込み十和田市の魅力を全国に発信すること
・若者たちが積極的に地域活動へ参加できるような環境にするための土台を自分たちが作る

活動※

2025.05　研究テーマ設定
2025.06　文献調査・調査票作成
2025.10　周辺施設への聞き込み（道の駅ロマンパーク）
2025.12　廃校活用事例の見学（山の楽校）/ 神奈川県からの移住者ワークショップ
2026.02　山の楽校でのイベント運営補助 / 中高生対象アンケート調査
2026.03　データ整理・分析 / 中高生対象のワークショック / 結果まとめ・ポスター作成

@MACHIOKOSHI2026





アンケート調査

本アンケートは、若者の地域イベントへの参加意欲の把握、イベント運営時の協力者の発掘、地域ボランティアに対する実際の印象の把握を目的として、中高生計228名を対象に実施した。

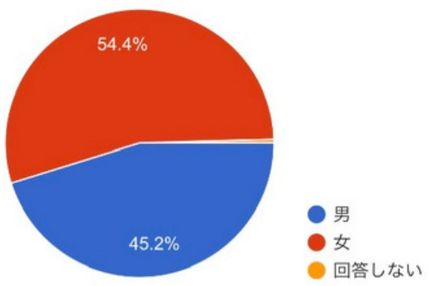
アンケート項目

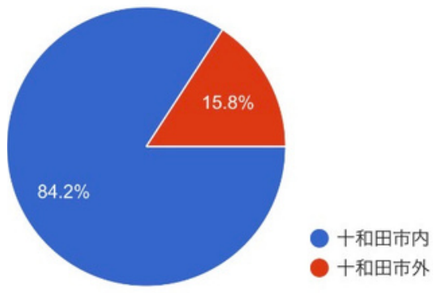
- 性別
- 出身
- 活動への参加経験の有無
  としていない理由

活動から得られたもの

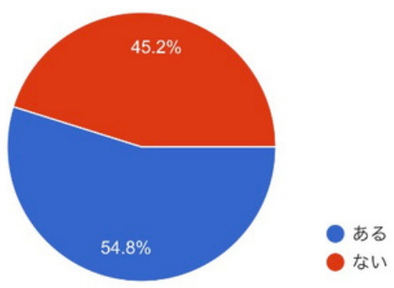
・自分たちの予想と実際に思ってい居ることのギャップ
・廃校には価値と姿を変えて活用できる可能性がある
・十和田市の良さに改めて気が付いた（食、自然、人が優しい、アートの町）

アンケート結果





これまでに地域の行事にボランティアとして参加したことありますか



ボランティアに参加していない主な理由

・時間がない
・お知らせが来ない
・何をしているのか分からない
・コミュニケーションが取れるか不安
・そもそも活動がない

アンケート結果から地域活動参加に向けた具体的方法

・地域活動の情報の発信
・地域活動に参加することで特典配布
・勉強スペースなどの若者が気軽に活用できる場所の運営をしそこでチラシを掲示し告知
・各学校にチラシを掲示してもらい同年代の人達の参加を促す
・ウォークラリーでスタンプ集めなどゲーム形式を作る

考察

地方には地方ならではの特別な経験と価値のある経験を
与えることができるのではないかと考える。
そのため、地方コミュニティとの交流、地域活動への参加意欲向上と情報化社会である現在にアナログな方法を取り入れることにより地域内のつながりの良さを知る機会になるのではないかと考える。



廃校舎の様子

まとめ

・すべての地域はその場所にしかない特別な価値を生み出すことができるポテンシャルを秘めている
・活動を成功にするためには自分たちが地域に密着しその地域とそこに住む人たちのことををよく知ることが重要になる

アンケートへのご協力と参考文献

文部科学省（２０２４）廃校活用事例集
未来につなごうみんなの廃校プロジェクト

十和田市立甲東中学校様
十和田市立十和田中学校様
青森県立三本木農業恵拓高等学校様

※本活動は、V2F（価値検証フィールドワーク）サポートの支援を受けて実施した。調査にご協力いただいた皆様に感謝する。